



西尾いきものふれあいの里だより

10月号

2023.10.1

# さとやま

## 10月の里といきもの

今年は彼岸頃まで、最高気温が30℃を超える日があり、残暑がいつまでも続きました。さすがに10月になると気温も落ち着いて、里も秋らしい風景になることでしょう。

菖蒲池横の柿畑では、色付いたカキの実の下で、**サワフジバカマ**の花が咲き、旅をする蝶が訪れます。



### アサギマダラ

マダラチョウ科に分類される蝶です。翅を広げると10センチ前後と少し大きめで、あまり羽ばたかずふわふわと飛びます。鱗粉が少ないので、翅が透けているように見えます。そのほんのりと青く見える部分の色を「浅葱色」と表現したようです。オスは、後翅に黒斑状の「性標」があることで、メスと見分けられます。

幼虫は、ガガイモ科の**キジョラン**や**イケマ**などを食べ、幼虫も成虫もその食草が持つアルカロイド系の毒を体内に持っています。この蝶を食べた鳥は毒に苦しみ、二度と襲わなくなります。これらの植物は、里では見つかっていません。



生態は謎が多く、成虫は、春から夏にかけて南から北へ世代を繰り返しながら移動し、夏は本州の1000mから2000mほどの高原地帯で過ごし、秋になると南へ移動すること、夏に日本本土で発生したアサギマダラのうち、多くの個体が秋になると南西諸島や台湾まで南下することが判明しています。

アサギマダラの渡りは、1980年頃から盛んに行われるようになったマーキング調査によって明らかになってきました。近年、三ヶ根山や愛知こどもの国でもマーキングが行われているようです。里でも、2015年に右の写真のような個体が見つかりました。鱗粉が少ないので、翅に簡単に油性ペンでデータを書き込むことができます。



アサギマダラが好む花として、よく秋の七草であるフジバカマがあげられ、公園などに植えられますが、植えられているものは、近縁のサワヒヨドリと交配されているサワフジバカマと呼ばれる園芸品種が多いようです。

里に自生する植物で、アサギマダラが好んで訪れる花としては、万灯山エリアでよく見られるヒヨドリバナがあります。フジバカマもヒヨドリバナも同じキク科ヒヨドリバナ属の植物で、アサギマダラのオスが分泌する性ホルモンに必要な、ピロリチジナルカロイドが摂取できるためと言われています。



しかし、メスはその必要がありませんし、オスもこれらの花以外に、キク科のズスカアザミやコセンダングサ、セイトカアワダチソウなどで吸蜜する様子が観察できます。

こうして里でエネルギーを蓄えたアサギマダラは、長旅に出発します。見かけたらそっと見守ってあげてください。マーキング蝶を見つけたら関係機関に報告するとよいでしょう。

## 10月はこんな生きものも見られます

この時期は多くのタデ科の植物が花をつけます。

駐車場北側やトンボの池付近では、ボントクタデやヤノネグサの花がたくさん見られます。

センター付近や、田んぼエリアではシャクチリソバが一面に白く咲きます。ヒマラヤ原産で、明治時代に野生化しました。ソバと同じような実がなります。えぐ味が強く、食べられないそうですが、ルチンを多く含み、血圧降下作用があるので、最近注目されています。



湿った場所では、アキノウナギツカミや、ミゾソバの花が多く見られます。どちらも、茎についている下向きの棘で、他のものに引っかかりながら体を支えます。アキノウナギツカミの名の由来は、その茎でウナギが掴めそうということのようです。

この2種類は、葉の形で見分けられます。アキノウナギツカミは茎を抱くように葉がつきます。ミゾソバは鉾型で牛の頭のように見えます。



草地に普通にみられるイヌタデも、長細い花穂のミスヒキもタデ科のなかまです。

また、万灯山へ向かう道では、ヨーロッパに持ち込まれ大繁殖して「世界の侵略外来植物ワースト100」に数えられているイタドリの実も見られます。

他にも、田んぼエリアなどでは、アキノノゲシの花が咲いていたり、タンキリマメの赤い鞘から黒い実が飛び出している様子が見られたり、トンボの里ではスズメウリのかわいい実を見つけることがあります。



万灯山へ向かう道や長円寺ではホトトギスの花を見ることができ、山頂では前回ご紹介したツリガネニンジンの花に交じって、アキノキリンソウの花が咲き「貝吹のかぎ万燈」がなかったためオケラの花をみつけることができます。

秋風を感じる1日、こんないきものたちを探して里を散策してみましよう。

## 9月の行事紹介



「楽しい絵手紙」の講座を9月17日(日)に開催しました。初めて絵手紙を描く親子や毎年この講座を楽しみに参加して下さる人などが集まりました。

里で咲いている花やイガのついている栗などを題材に、紙や木片に絵手紙を描きました。

初めて絵手紙を描く人は、文字が太くておもしろい、色塗りが難しかったが楽しかったなどの感想でした。講師の指導を受け、木片に立派に完成させた作品は、ネイチャーセンター展示室に展示されます。

## 10月の行事予定

8日(日)	棚田でお米を作ろうⅡ	60名	AM9:30~11:30	当園職員
22日(日)	棚田でお米を作ろうⅢ	60名	AM9:30~11:30	当園職員

内容 ~ 実った稲をカマで刈取り、はざ掛け乾燥させ、脱穀機で稲から籾を取り除く作業を行います。

※「棚田でお米を作ろう」を2回受講された方には、お米をプレゼントします！また、雨天等で中止した場合は、1週間後の予備日に開催します。【予備日：8日⇒15日・22日⇒29日】

28日(土)	万灯山へ秋のお花畑を見に行こう	20名	AM9:30~15:00	高須桂子
--------	-----------------	-----	--------------	------

内容 ~ 秋の生き物を観察しながら、山頂のツリガネニンジンのお花畑を楽しみにウォーキングしよう。

## 11月の行事予定

5日(日)	秋の里山のキノコたちを観察しよう	20名	AM9:30~11:30	石川まゆみ
-------	------------------	-----	--------------	-------

内容 ~ 里山に生育するキノコについて学びませんか。過ごしやすくなってきた秋の里山を散策しながら、様々なキノコを観察し見分け方や特徴を観察します。

19日(日)	里山 俳キング	20名	AM9:30~11:30	服部くらら
--------	---------	-----	--------------	-------

内容 ~ 自然の宝庫をゆっくり散策しながら、心のファスナーを開けませんか。気づいたことや驚いたことなどを17くらいにすると、それがもう俳句なのです。心が喜びますよ。

- ◇ **参加受付**は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が**4名以下**の場合は開講しません。
- ◇ **参加申込者**は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◇ **当日の天候**により、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、**参加費は無料**ですが、講座により**材料費は実費**を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ **各講座の詳細な内容**については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

## 西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課